地域と医療で咲くコミュニケーション

あまが『天





三 兵庫県立尼崎総合医療センター

だより

[部門紹介]

薬剤部「個々の患者さんに適した処方提案や 医薬品の安全確保、副作用マネジメント を行い薬剤師の職責を果たします。」



[各科紹介] 呼吸器外科·呼吸器内科

- ●尼崎市保健所長からの"ひとこと" ●スタッフのつぶやき ●ぶらり~っと病院探訪

●かかりつけ医を持ちましょう!



個々の患者さんに適した処方提案や 医薬品の安全確保、副作用マネジメント を行い薬剤師の職責を果たします。

薬剤部は、5つの基本方針を掲げ、患者さんの健康を守り、安全・安心で納得していただける医療を提供するために、薬物療法の適正化や医薬品の安全管理に努めています。

●薬剤部基本方針

- ●医薬品に関する医療事故防止対策の徹底を図ります。
- ②個々の患者さんに最適な安全で安心な質の高い薬物療法の提供を目指します。
- ●多職種との連携を図り、チーム医療の一員として日々薬剤師としての専門性を発揮します。
- ④高度医療等に対応できる次世代を担う優秀な薬剤師の育成に努めます。
- ●地域の薬剤師等との連携を図り、垣根のない地域医療を目指します。



^{薬剤部長}福井 英二

●薬剤部の新たな取組み

- ●病棟に薬剤師が常駐し、服薬指導、処方支援、医薬品管理 (持参薬を含む)、医薬品情報の提供等を充実させ、薬物 療法における有効性・安全性の確保に努めています。
- ②手術室にサテライト薬局を設け、医薬品の安全管理や適正 使用に貢献しています。
- ③休日に抗がん剤を調製することで安全な薬物療法に寄与しています。また、定期注射薬を毎日払出すことで医薬品の効率的な使用を促進しています。

●かかりつけ薬局を持ちましょう。

外来処方は原則院外処方となります。ぜひ、かかりつけ薬局をお持ちください。かかりつけ薬局を持つ事により、 複数診療機関にかかられている場合でも薬の重複や飲み合わせ等の総合的な管理が可能になります。また、患者 さんのご希望にそったきめ細かな調剤も可能です。

薬剤部では、地域の医師や薬剤師と密接な連携を図り、外来・入院の切れ目のない安全・安心な医療を患者さんに提供できるよう努めるとともに、患者さんとの距離をより近くして「存在感のある信頼される薬剤師」をモットーに薬の専門家集団として活動します。

呼吸器 外科

常に患者さんのQ.O.L.を 第一に考えます!





呼吸器外科は、2006年に県立尼崎病院と県立塚口病院が機能分担にて再編された折に県立尼崎病院に集約されました。現在では、5名のスタッフで協力し、年間230例以上の全身麻酔下手術を続けております。新病院では、月曜日から金曜日まで毎日手術枠を頂いており、待機手術はもとより常時緊急患者さんに対応可能となりました。当科もスタッフを補強し、通常の予定手術を行っているときでも胸部外傷などの緊急手術に対応できるようにより一層充実させる予定です。

呼吸器外科科長

糸井 和美

- 日本胸部外科学会指導医·認定医、
- 日本呼吸器外科学会指導医·専門医·評議員資格、
- 日本外科学会専門医·指導医、
- 日本呼吸器内視鏡学会指導医·気管支鏡専門医

呼吸器 内科

最新の医療を提供いたします

近年、呼吸器疾患領域の薬物療法は著しく進歩しております。気管支喘息並びに慢性閉塞性肺疾患に対する合剤も含めた新規吸入治療薬の相次ぐ登場、ピルフェニドンに加えて間質性肺炎に対する新たな抗線維化薬ニンテダニブの承認、更に、肺癌領域では、様々な癌遺伝子の発見に伴った当該遺伝子を個別的に標的とした治療薬のみならず科学的に証明された免疫療法薬ニボルマブの登場、等々、治療の選択肢の増加には顕著なものがあります。これらを個々の患者さんに応じて的確に適応を選択し治療することが私共呼吸器内科医の責務であると考え日々の診療をしております。更に、私共呼吸器内科は、呼吸器外科と一体となって、呼吸器グループを形成し、両者が、有機的に関わりあって呼吸器疾患全般にわたり、よりよい医療、最新の医療を提供致しております。

紹介。

呼吸器内科には、咳や痰、息切れといった症状のある方、或いは、胸部X線写真で異常を指摘されて精密検査のために受診される方が多くいらっしゃいます。よくお話をうかがい、分かり易くご説明させて頂くことを心がけて診療にあたっております。医療機関の一層の発展には、医療関係者のみならず患者さん方の御参加御協力が不可欠です。医療者と被医療者とが相互に関わりあってお互いを止揚したところに新たな地平が拡がって参ります。皆様方と共に新病院呼吸器グループの更なる発展向上を希求して参りたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。

対象とする疾患

- ①肺炎をはじめとする呼吸器感染症
- ②気管支喘息を主としたアレルギー性疾患
- ③肺気腫を含んだ慢性閉塞性肺疾患
- ④間質性肺炎に代表されるびまん性肺疾患
- ⑤肺癌・悪性胸膜中皮腫等の腫瘍性疾患

各種呼吸器疾患の多施設共同臨床研究にも多数参加しておりますので何卒宜敷く御協力下さいます様お願い申し上げます。

診療内容の紹介

医療器具の進歩に伴い、呼吸器外科領域の手術も低侵襲な手術が広く行われるようになってきました。当科でも胸腔鏡というカメラを使いながら小さな切開創でおこなう手術が全体の8割を占めております。肺癌の手術はもとより、縦隔腫瘍の摘出術においては従来心臓の前にある胸骨を縦に割って手術をする胸骨正中切開による侵襲の大きな手術を行っていました。現在は、片側の小開胸を行い、胸腔鏡を利用して手術を行ない患者

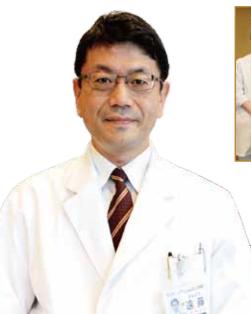
対象とする疾患

肺癌・縦隔腫瘍などの腫瘍性疾患から真菌症・ 結核・膿胸などの炎症性疾患も手がけています。年間の呼吸器外科初診約300例、年間の全 身麻酔手術症例230例以上を行っております。 その内の約3分の1強が肺癌症例で、肺悪性腫 瘍全般では全症例の4割を占めます。気胸症例 が約5分の1で、結核や真菌症などの炎症性疾患

> が約10%になって おります。



左から: 森村医師、岩切医師 糸井医師、阪井医師 深田医師





後列左から:

大歲医師、松本医師、二階堂医師嶋田医師、平野医師、片岡医師

中列左から:

堀口医師、細川医師、四宮医師齋藤医師、井上医師、和田医師

前列左から:

平位医師、平林医師、遠藤医師

呼吸器内科部長

遠藤 和夫

日本呼吸器学会認定医·指導医 日本内科学会認定医 ICD(infection control doctor)認定医

院長補佐·診療部長·呼吸器内科科長

平林 正孝

日本呼吸器学会認定医·指導医 日本内科学会認定医 がん治療認定医機構認定医 京都大学呼吸器内科臨床教授 緩和ケアの基本教育のための指導者研修会修了



県立尼崎総合医療センターへ

10656

県立尼崎総合医療センターに 期待すること



郷司保健所長(中央)と保健所職員

尼崎市保健所長 郷司 純子さん

高度急性期医療・高度専門医療を担うマグネットホスピタルとして開院もさることながら、尼崎病院と塚口病院の統合再編という大事業を成し遂げられたことに、心より敬意と感謝の意を表します。

本市では、平成25年4月に「健康寿命の延伸」と「地域での安全で安心な暮らしを確保するための体制の充実」を基本理念とした地域医療計画「第2次地域いきいき健康プランあまがさき」を策定し、基本方針である適切な医療の確保、健康危機管理体制の確立について、総合医療センターに大変重要な役割を担っていただいております。

第2種感染症指定医療機関としてさらなる機能充実がなされ、災害拠点病院としても活躍が期待されており、阪神圏域の県民にとって非常に心強いものとなっております。また、ER型救急救命センターを備えるほか、身体合併を持つ精神疾患患者の病床も整備されました。総合医療センターが疲弊することなく、高度医療の提供を維持していただくためには、コンビニ受診を控え、早めにかかりつけ医にかかることが必要であることを市民とともに考えていくなど当保健所も所在地保健所として大きな責任の一翼を担っていきたいと思います。

本市は昨年度、地域リハビリテーション支援センター(関西労災病院)、総合医療センター、尼崎市医師会など関係機関の皆さまとともに退院調整のしくみ作りを行い、今年度はそのブラッシュアップと切れ目のない在宅医療・介護連携のスタートラインに立とうとしています。総合医療センターには、引き続き21世紀的「阪神地域完結型医療・介護」の構築への舵取りをしていただけることを期待します。

今後も、本市保健行政の実施にお力添えをお願いいたしますとともに、総合医療センターのご発展を保健所一同祈念いたします。

フ ぶ っ の や き

防災センターって…。





こんにちは!

防災センターは、病院北玄関入ってすぐ左側に位置しており、 来院の方の案内と出入り管理、および、正面玄関の総合案内とと もに様々なお問合せにお答えしています。そして、「救命救急の 受付」、「面会者の受付」、「夜間休日の電話取次」、「駐車場の 監視と料金の回収」、「落し物の取扱い」、「院内で発生するトラ ブルへの対処」なども我々の重要な業務です。

さらに、普段から病院の中に完備され消防設備、非常通報設備 を上手に運用し、また、中央監視室と連携をとりながら、火事な

どの院内災害を未然に防ぐとともに、自然災害時においても被害を最小限にくい止めるように努めています。

毎日いろいろなことが起こるなかで、7名の警備員が24時間、交替勤務で詰めており、病院の安全・安心を見守っています。明るく、さわやかで、少し厳しい防災センター、どうぞよろしくお願いいたします。

今、当センターの

病院食が話題に

ぶらり~っと 病院探訪 🖇

栄養管理部 厨房

↑ 入院された患者さんの間では、県立尼崎総合医療センターの病院食が話題 ・ になっていますが、今回は、栄養管理部の厨房を訪ねてみました。

当センターでは、2階外来の南側に設置された栄養管理部の厨房から、1食約200種類、1日1800食のお食事が病棟に届けられています。

厨房に入ってまず目を引くのが、**高機能を有する調理設備の数々**です。中でも、他にさきがけて導入した最新の調理機器は、「茹でる」・「焼く」・「炒める」・「煮る」・「揚げる」に加えて「圧力調理」が可能で、その性能は従来機器と異なり、『高速加熱』、『均一加熱』および『操作の柔軟性』などに優れ、当センターでは大中小3台が導入されています。

また、お食事には、箸とスプーンとお茶が用意され、食器は明るい絵柄で、誰もが持ちやすく、スプーンですくいやすいといった『人にやさしいデザイン』(ユニバーサルデザイン)に配慮されています。

選択メニュー(500円、100円追加メニュー)も始まるなど、これまでの病院食のイメージをくつがえし、より家庭に近い食事の提供を目指したこのような取り組みが功を奏し、患者さんから「美味しい~」との好評な意見を聞く機会が増えました。



超高齢化社会に向けて求められるかかりつけ医!

住み慣れたお住まいへ戻られるために、かかりつけ医を持ちましょう!

当センター内地域医療連携センター(1階 正面玄関ホール横)と外来診察エリア(2階 採血・採尿室横)には、尼崎市内の診療所や病院を記した地域医療連携マップを設置しています。

かかりつけ医をお持ちでない方は、地域医療連携マップ(地区別マップ) にて、お住まい近くの診療所をお探しください。

詳細な情報に関しては、地域医療連携センターにてお尋ねください。



編集後記

日が短くなり、秋風に肌寒さを感じ、日々の生活で秋の訪れを 感じるようになりました。食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、実り

の秋…、たくさんの楽しみのある季節がやってきました。

皆様は、どのような秋にする予定ですか? 私は、昨年紅葉を見に行けなかったので、今年は見に行きたいなと思っています。朝晩の温度差が大きい時期ですので、体調管理には気を付けて素敵な秋をお過ごし下さい。 (Y.S.)





兵庫県立尼崎総合医療センター

Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)

〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町二丁目17番77号 TEL 06-6480-7000(病院代表) FAX 06-6480-7001

URL: http://agmc.hyogo.jp/

兵庫県立尼崎総合医療センター

